



市では、万一の場合にあわてず落ち着いて、より安全に避難できるように、自宅から最寄りの避難所や危険箇所などを記載した「枕崎市防災マップ」を作成し、今年3月に市内全家庭に配布しました。

日頃から、いざという時のための避難所や危険箇所を確認し、災害に備えるようにしましょう。



◎避難時の心得
災害が発生し、避難をするときに気を付けたい6つのこと

◎避難時持出し品
避難をするために最低限そろえておきたいもの

◎土砂災害について
土砂災害の種類とその特徴及び土砂災害が起きる可能性のある、注意すべき前触れ



◎避難情報・全国瞬時警報システム・防災無線情報
緊急時に発せられる情報について、伝達される情報の種類やサイレンの鳴らし方による情報の違いなど



◎津波対応マップ・災害危険地域及び避難場所
各地域の標高や災害危険地域、避難場所を地図上に色を分けて表示。災害発生時の避難場所や避難所についての情報など

※「枕崎市防災マップ」は市ホームページからもダウンロードできます。

問合せ 総務課危機管理対策係
TEL 7 2-1 1 1 1 (内線 2 1 4)



▲枕崎市女性消防隊が出場した全国女性消防操法大会(平成23年・横浜市)



▲枕崎市女性消防団発足式で決意表明をする俵積田尚子班長

敢闘賞を受賞しています。今までは操法訓練を中心とした活動でしたが「現場でも自分たちができることがあるのではないか。もっと地域に貢献したい」という本人たちの強い思いから、今回、消防団に加入することになりました。

女性の視点を生かす

東日本大震災では、物資の提供や避難所の運営等の災害現場での意思決定に、女性の参画が非常に少なく、男女のニーズの違いを踏まえた対策が不十分でありました。

俵積田班長は、「防災・減災において、女性に求められていることがあるからこそ発足だと思えます。それに応えられるように、技術を磨き、組織力を高めていきたいです」と今後の意気込みを話します。

連絡体制の一助を担うこととなります。これまでもなかった女性消防団員ならではの「視点」を取り入れ、男女それぞれの意見を出し合い、集約することで、更なる防災・減災対策の充実が図られることが期待されます。

各地域においても、これから実施される様々な訓練に進んで参加し、その経験をもとに多くの意見を出し合い、「災害に強い枕崎市」の実現に向けて、一体となつて取り組みましょう。

問合せ 枕崎市消防本部消防総務課消防団係 TEL 7 2 0 0 4 9



図上訓練で地図へ危険個所の書き込みを行う女性消防団員

女性消防団発足

防災に女性の視点を

災害は、いつ起こるか予測が難しいため、日頃からの備えが重要になります。刻々と変化する状況に柔軟に対応するため、男女それぞれの視点を生かした防災対策の取り組みとして、今年度から女性消防団が発足しました。

県内で初めての「消防団図上訓練」が鹿児島県消防協会主催により、5月18日、19日に地場センターで実施され、薩摩地区(枕崎市、南さつま市、南九州市、指宿市、いちき串木野市、日置市、薩摩川内市、さつま町)の消防団員約200人が参加しました。

図上訓練では、参加者が地図を囲み、大災害を想定しながら地図へ危険個所などを書き込み、話し合いを行います。そして書き込んだ地図を持って実際に現場を歩き、確認を行います。それを踏まえて、もう一度話し合い、より具体的な地図への書き込みをしていきます。

その地図をもとに、起こり得る災害をより具体的に想定し、検討・訓練を行うことで、被害の軽減や防災体制の更なる充実が期待できます。

枕崎市からは、今年度より消防団員の一人となった女性11人も参加しました。団員の迫田智子さんは「普段あまり通ることないところを歩いてみて、知らないことも多かったです。これからは、住民への声かけから始めて、地域との連携を図りたいです」と話していました。

今回は、消防団員を対象とした訓練でしたが、市では今後、各校区の市民を対象にした図上訓練を計画しています。

4月1日、枕崎市役所で消防団新入団員への辞令交付が行われ、本市初となる女性消防団員12人が誕生しました。

5月19日には、枕崎市消防署で枕崎市女性消防団発足式が行われ、俵積田尚子班長が「消防の知識・技術などの習得に積極的に取り組み、団員一人ひとりが消防団に誇りと情熱を持って、災害に強い枕崎市」の実現を目指して、努力することを誓います」と、力強く決意の言葉を述べました。

12人の団員は、これまで「枕崎市女性消防隊」として活動。平成23年には鹿児島県代表として全国女性消防操法大会に出場し、



女性消防団員のみなさん